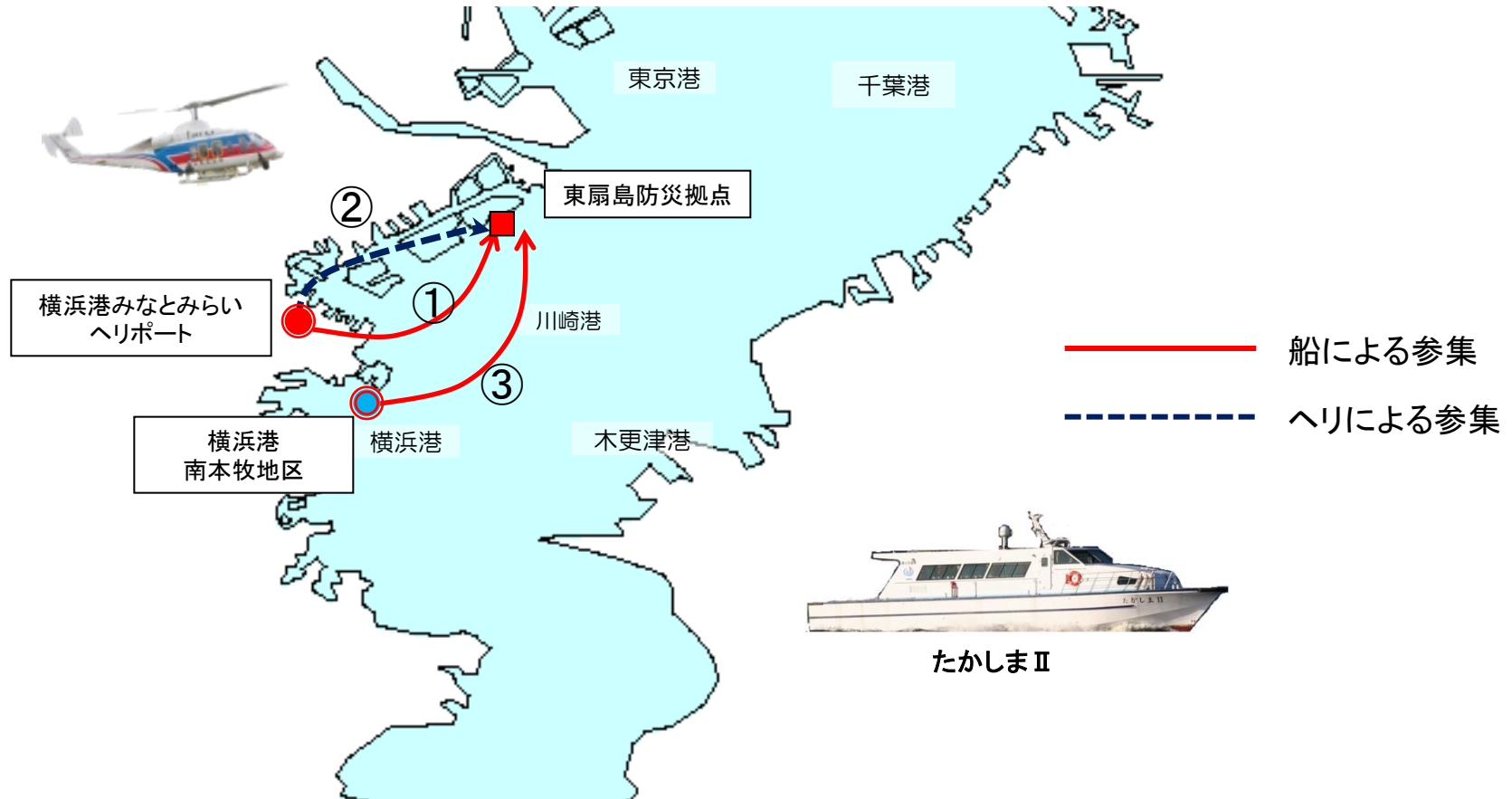


# 訓練番号① 活動要員及び作業員参集訓練

- ①【13:00 4.5m岸壁に到着】国土交通省(関東地方整備局、関東運輸局)、川崎市港湾局の活動要員が京浜港湾事務所の船舶「たかしまⅡ」により参集  
横浜港新港地区ミニフロート → 東扇島防災拠点
- ②【13:10 着陸】国土交通省、川崎市港湾局の活動要員がヘリコプターにより参集  
横浜港みなとみらいヘリポート → 東扇島防災拠点
- ③【13:10 31号岸壁に到着】日本埋立浚渫協会の作業員が交通船で参集  
横浜港南本牧ふ頭 → 東扇島防災拠点



# 訓練番号②人命救助訓練、④緊急輸送路確保訓練

- 1) 緊急輸送路上(臨港道路)の被災車両から川崎市臨港消防署が負傷者を救助(川崎臨港警察署が周辺の規制・警戒にあたる)
- 2) 救助した負傷者を川崎DMATが応急処置を行い、神奈川県警航空隊及び川崎市消防局航空隊のヘリコプターが江東区有明の防災拠点まで救急搬送
- 3) 緊急物資輸送の障害となる車両を協定に基づきJAF神奈川支部が撤去、仮置き場所まで搬送

川崎臨港警察署が規制・警戒にあたる



13:15頃～

川崎市臨港消防署が被災車両から負傷者を救助



神奈川県警航空隊及び川崎市消防局航空隊のヘリコプターが江東区有明の防災拠点まで救急搬送



JAF神奈川支部が車両を撤去・搬送



13:35頃



13:30頃

川崎DMATが車両から救助した負傷者の応急処置にあたる



# 訓練番号③ 緊急確保航路啓開訓練



13:40頃～



緊急確保航路に大型の障害漂物が沈んでいることの想定で、埋立浚渫協会が障害物を撤去※今回はトラック等を引き上げ予定



緊急確保航路に大型の漂流物が流出したことを想定して、国交省千葉港湾事務所の清掃兼油回収船が漂流物を撤去



巡視艇 たまかぜ  
浮遊油拡散

緊急確保航路に油が浮いているとの想定で、「べいくりん」、川崎海上保安署巡視艇「たまかぜ」が放水により油を拡散



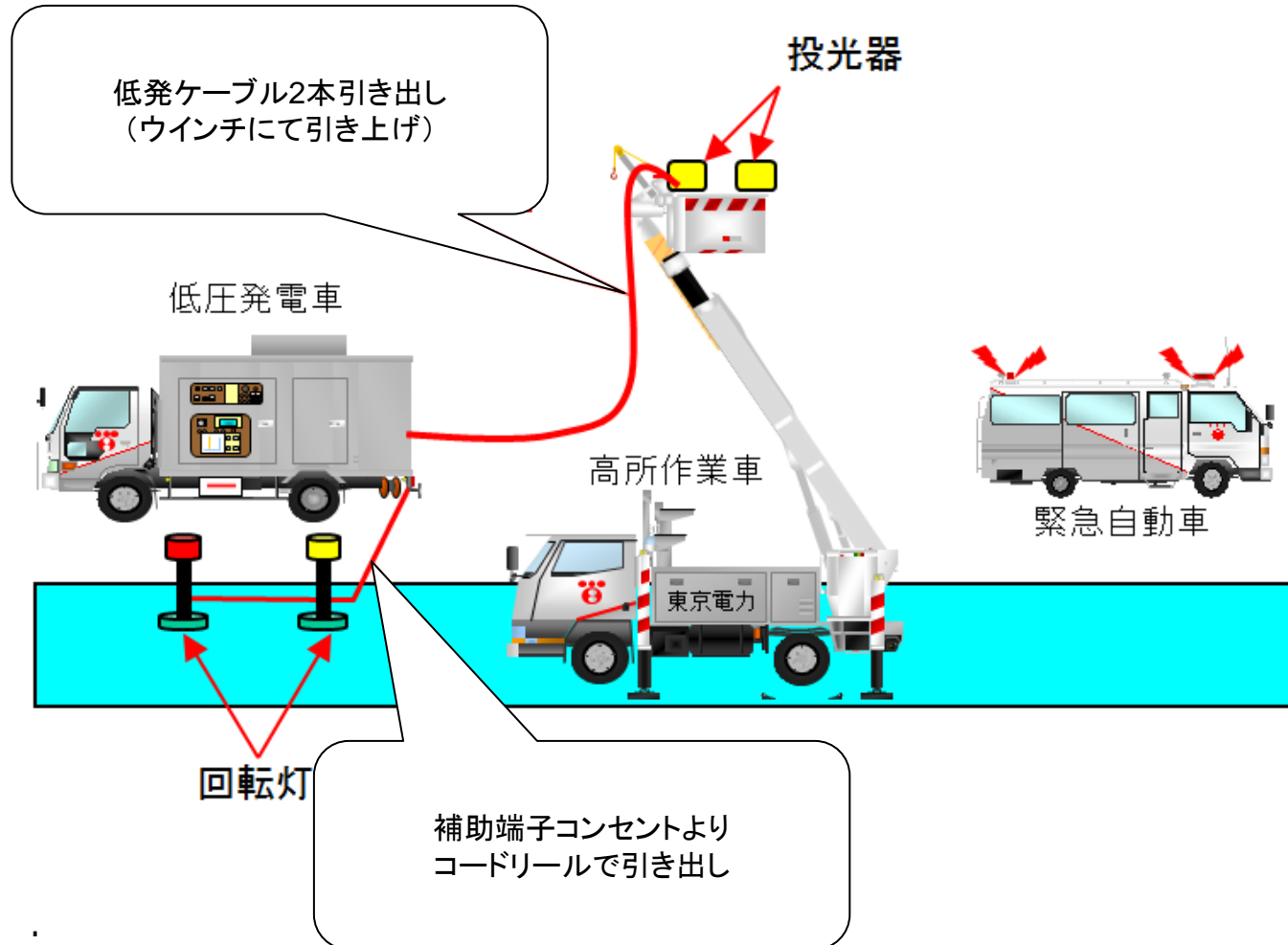
うらなみ

漂流物撤去・浮遊油拡散後に国交省東京湾口航路事務所の航路調査船がナローマルチ(測深器)により航路の安全を確認

31号岸壁

本部テント

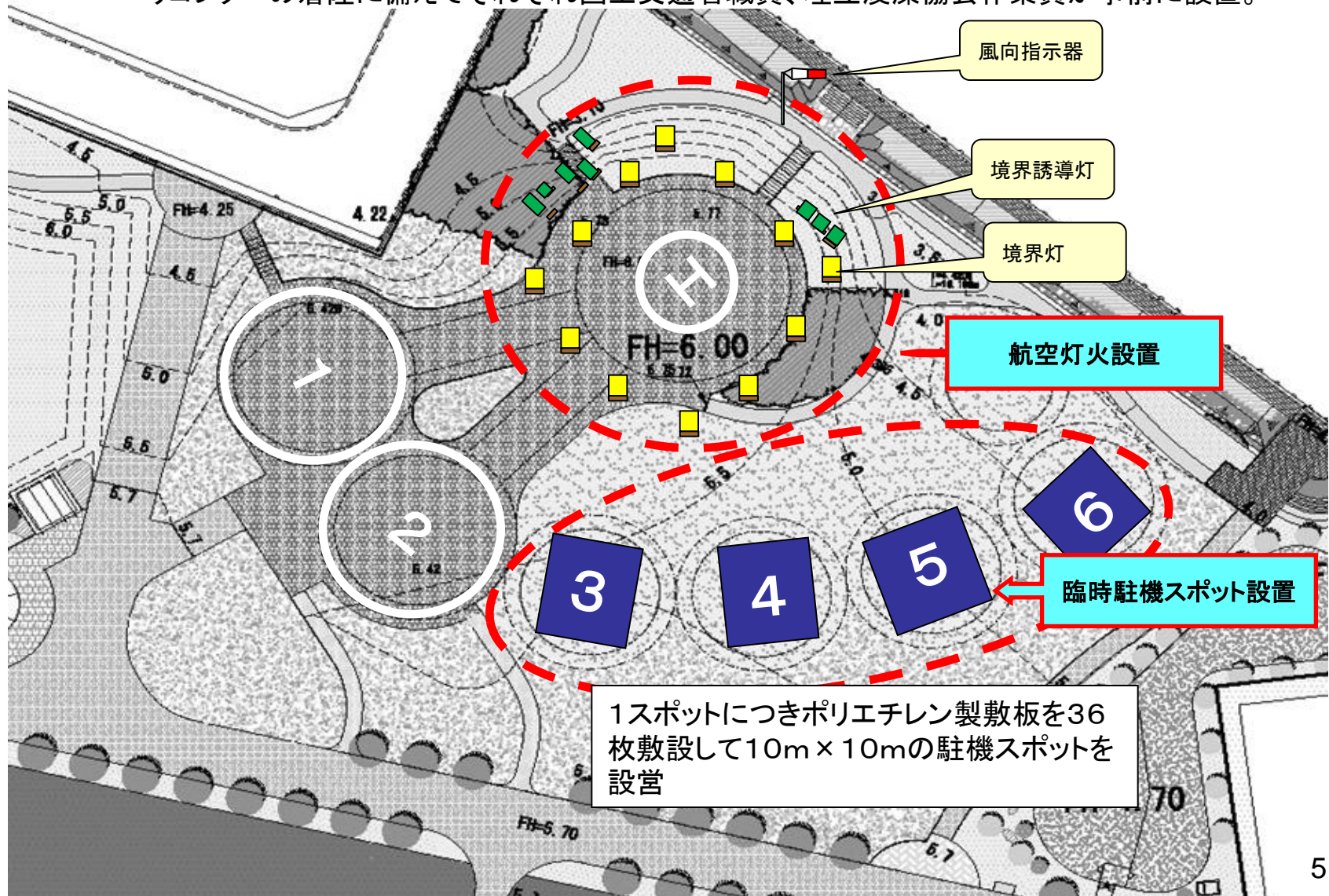
東京電力川崎支社が停電中の施設に対して低圧発電車による応急送電訓練を実施する





# 訓練番号⑥ ヘリコプター臨時駐機スポット及び航空灯火設置訓練(事前)

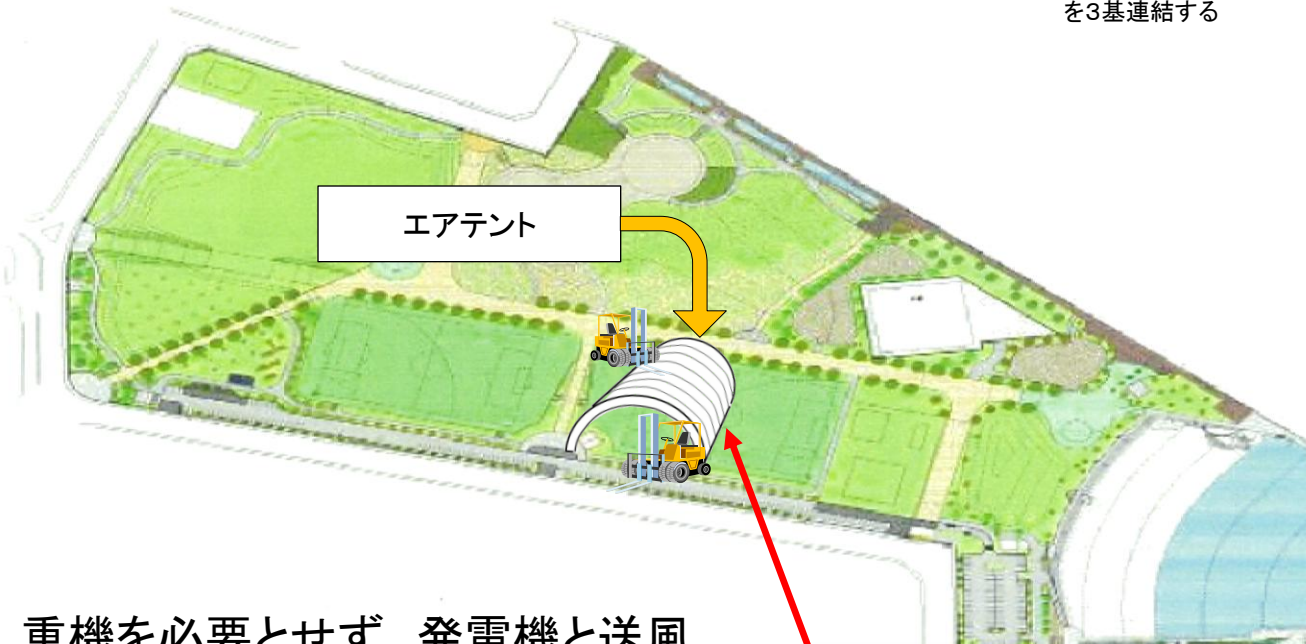
芝生エリアを臨時ヘリポートとして使用するため、航空灯火及び臨時駐機スポットを設置する訓練。  
ヘリコプターの着陸に備えてそれぞれ国土交通省職員、埋立浚渫協会作業員が事前に設置。



# 訓練番号⑦ エアテント（緊急物資仕分け用）設営訓練（事前）

緊急物資を仕分けするエアテントを設営する訓練。  
設営されたテント内においては協定に基づき川崎港運協会が物資の荷捌きを実施。

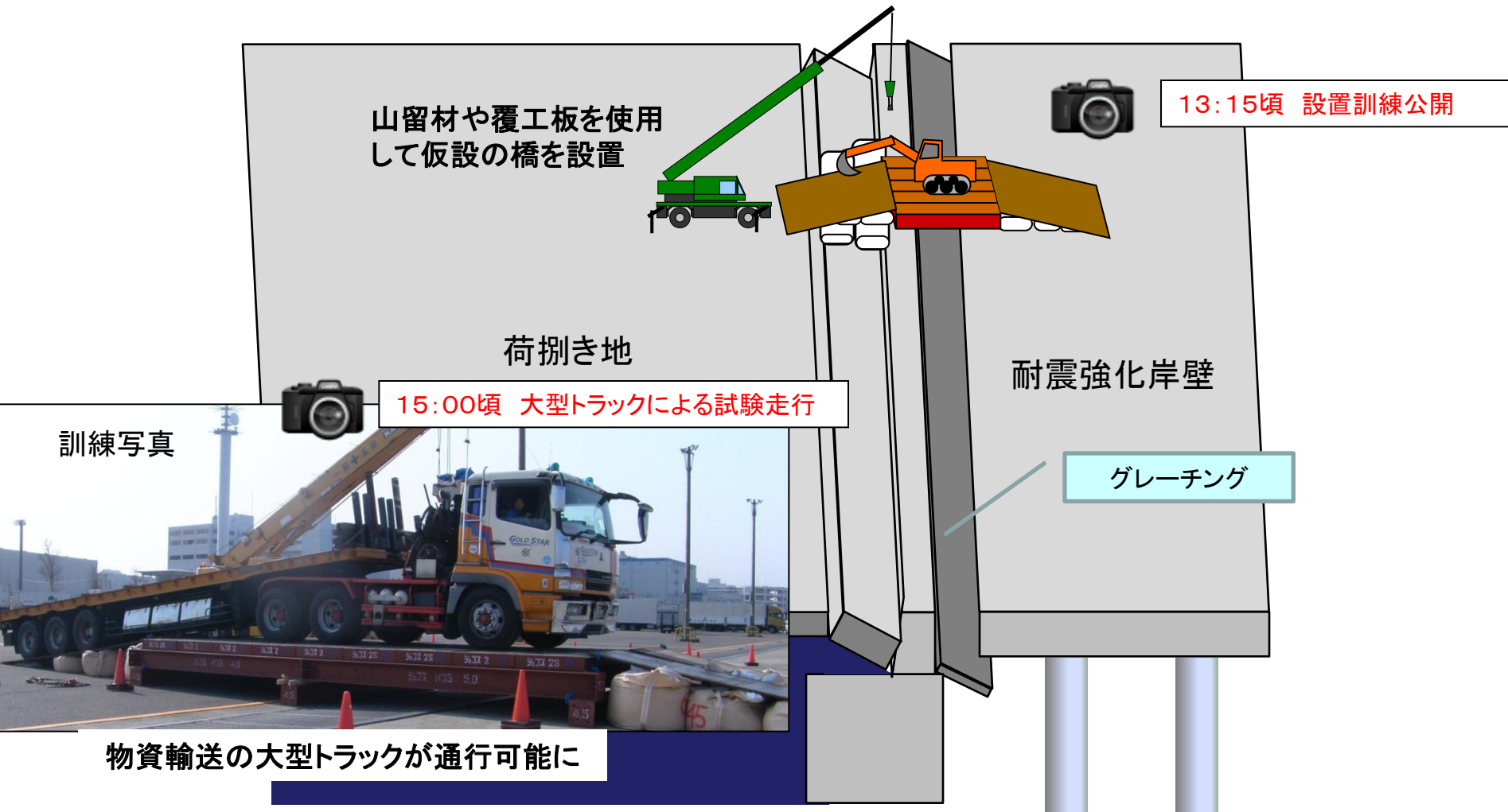
○エアテント設営  
備蓄してあるエアテント  
を3基連結する



1基の大きさ：  
縦20m×横10m 高さ6m



地震によって耐震強化岸壁の背後のグレーチングが落下したり、背後が陥没したことを想定して、防災拠点に備蓄してある資機材で仮設の橋を設置する訓練

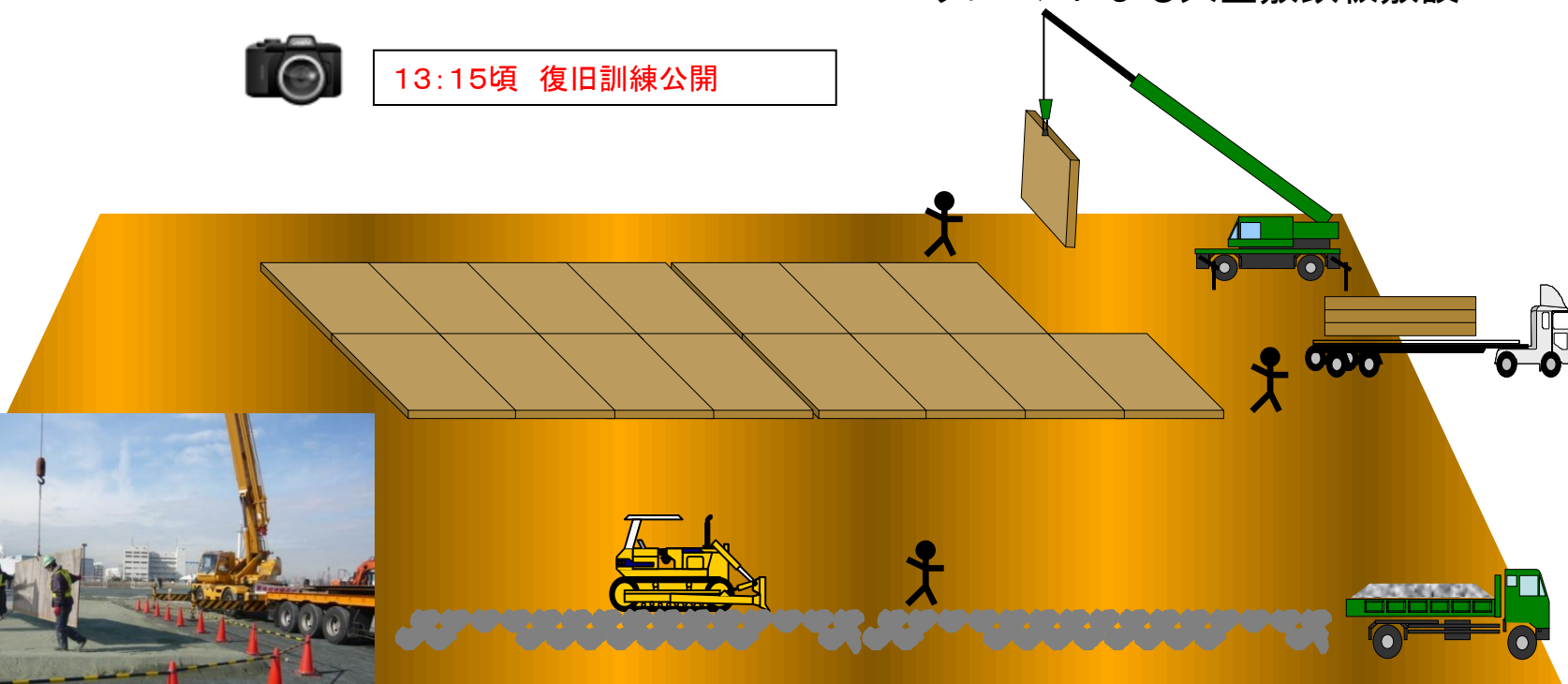


地震により防災拠点内荷捌き地(グラウンド)の地盤が液状化して不陸が発生、荷捌き等が不可能となったため、防災拠点に備蓄してある敷鉄板を敷設して応急復旧する



13:15頃 復旧訓練公開

クレーンによる大型敷鉄板敷設



ブルドーザーでカラスクリーニングス(碎石の一種)を敷き均し

液状化した地盤を整地後、敷鉄板を敷設



## 訓練番号⑨ 緊急物資海上輸送訓練

- ・【11:00頃 小松川リバーステーションに到着(早朝東扇島を出航)】東扇島防災拠点の舟運岸壁から小型船舶+台船により小松川リバーステーション(荒川)へ緊急物資を輸送。現地で陸揚げされた物資は陸上自衛隊、東京都トラック協会のトラックによって自治体の物資拠点へ搬送
- ・羽田空港の管理用棧橋から国交省東京港湾事務所の港湾業務艇「あいりす」により江東区の有明客船ターミナルへ緊急物資を輸送
- ・海上自衛隊により運ばれてきた緊急支援物資を31号岸壁より陸揚げ



# 訓練番号⑩ 緊急物資航空輸送訓練

- ・羽田空港から陸上自衛隊のヘリコプターが緊急物資を輸送
- ・東扇島防災拠点から関東地方整備局のヘリコプターが横浜港みなとみらいヘリポートへ緊急物資を輸送
- ・東扇島防災拠点から横浜消防局のヘリコプターが有明防災拠点へ緊急物資(医薬品)を輸送



# 訓練番号⑪ 緊急物資一時保管訓練

・協定に基づき、緊急物資を防災拠点のテントから搬出し、東扇島内の神奈川倉庫協会加盟倉庫4社にて一時保管・荷捌き





# 訓練番号⑫ 津波避難訓練

津波警報発令により、公園来園者を川崎臨港警察署が津波避難ビルである首都圏臨海防災センターへ避難誘導、警報解除後に東扇島から千鳥町岸壁まで船によって輸送する訓練。

川崎市港湾局の船舶「あおぞら」が参加

The map displays the Kawasaki River area with a red dashed line indicating the evacuation route from Higashi Senshima (東扇島) to Chidori-cho Quay (千鳥町岸壁). An inset image provides a detailed view of the Chidori-cho Quay area, showing buildings and boats. A camera icon is positioned near the bottom right of the map area.

千鳥町岸壁

東扇島防災拠点

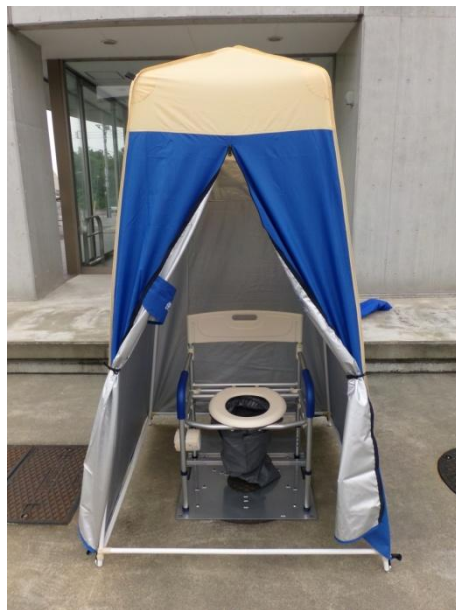
あおぞら

14: 30頃 「あおぞら」4.5m岸壁出航

# 訓練番号⑬ 災害用マンホールトイレ組み立て訓練

## 【今回初】

・専修大学(川崎)の学生ボランティアグループ『SIV:Senshu Ikuta Volunteer』による災害用マンホールトイレの組み立て訓練を実施。



### ～ 概要 ～

マンホールトイレは、下水用マンホールなどに、汚物を直接廃棄する簡易設営タイプのトイレです。

避難所などに設営する災害用仮設トイレとして、注目されています。

#### ■ト イ レ

[使用時サイズ] W67×D75×H79～86.5cm

[重量] 13.5kg

[対応マンホール内径] 20・30・40・50・60cm

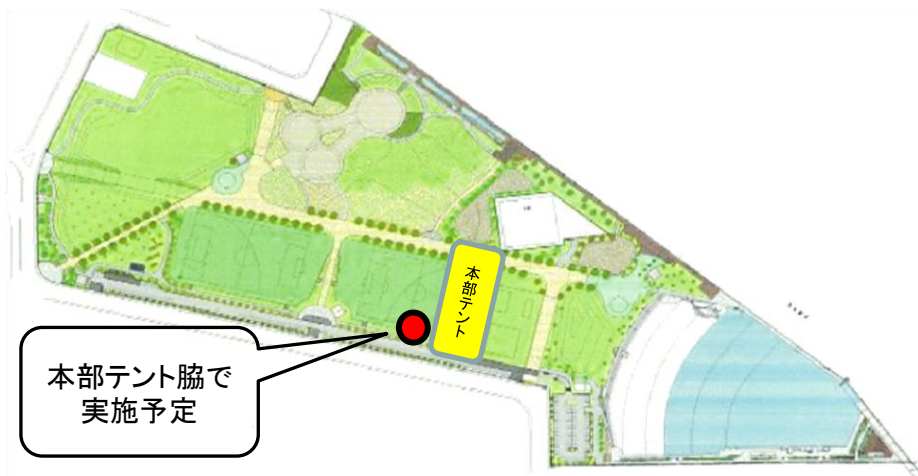
[備蓄数] 4基

#### ■テ ント

[設営サイズ] W120×D120×H200cm

[重量] 6kg

[備蓄数] 4張



本部テント脇で  
実施予定

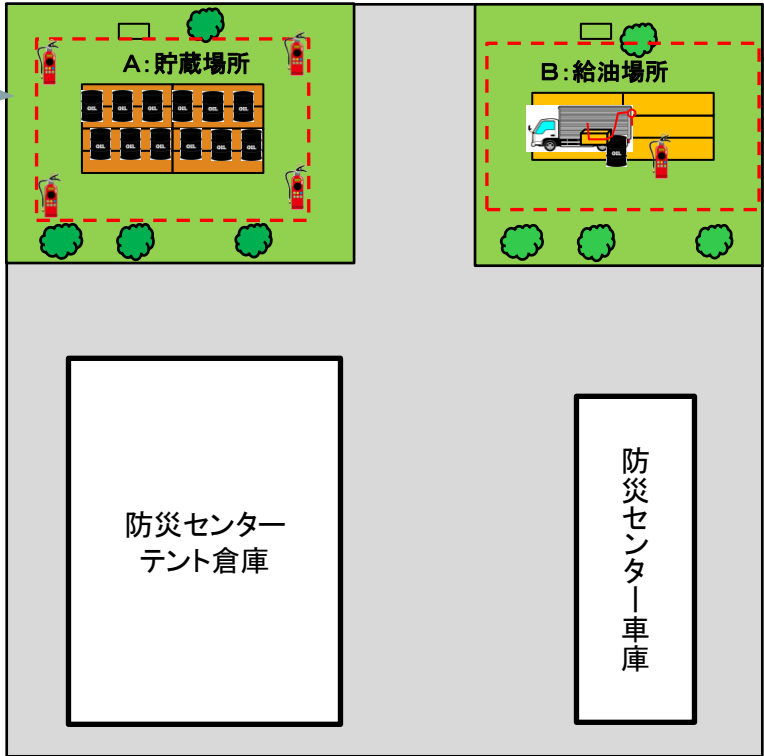
# 訓練番号⑭ 仮設燃料給油所設営訓練及び給油訓練（13:30～）

## 【今回初】

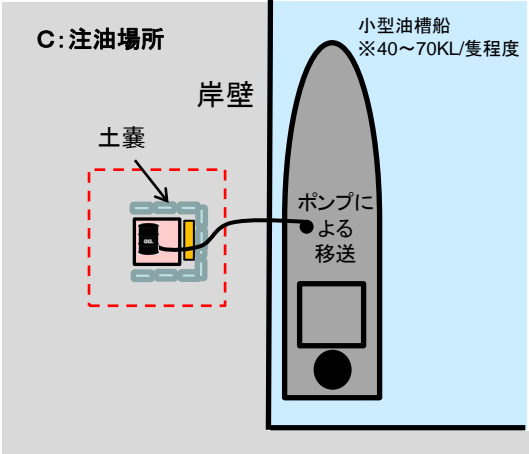
- ・横浜マリン石油(株)の油槽船が-4.5m物揚場に接岸し、燃料を岸壁上のドラム缶へ注油する訓練
- ・埋立浚渫協会により、危険物の仮貯蔵所及び仮取扱所を設営する訓練
- ・埋立浚渫協会により、-4.5m物揚場から仮設の燃料給油所へドラム缶を運搬し、車両に給油する訓練



拡大図



拡大図



  
13:30頃  
復旧訓練公開

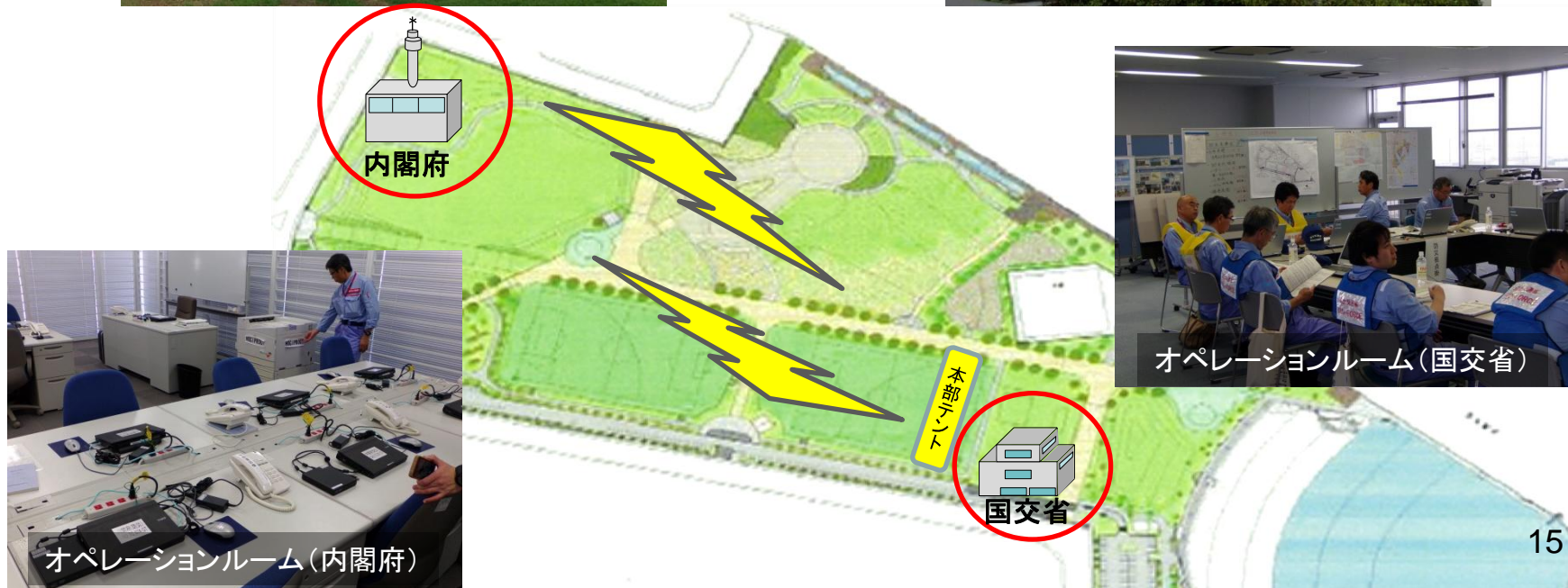
東日本大震災での燃料不足の教訓を踏まえ、物資輸送車両への給油を目的として、関係資機材の準備、及び危険物の仮貯蔵・仮取扱い等の安全対策及び手続きについて、14川崎市臨港消防署と調整中。



# 訓練番号⑮ 内閣府防災拠点施設における情報伝達訓練

## 【今回初】

・国土交通大臣官房(運輸安全防災)、運輸局、港湾局、整備局職員が、内閣府東扇島防災拠点において、通信器機等を利用しての情報伝達訓練を行う。



# 訓練番号①⑥ 防災関係車両展示

神奈川県警、川崎市消防局、海上災害防止センター、JAF、東京電力、国土交通省の防災車両などを展示します  
○展示予定車両

## 神奈川県警



震災対応活動車

## J A F



レッカー車

## 海上災害防止センター



エアボート

## 東京電力



配電用緊急車

## 国土交通省



災害対策本部車

## 川崎市消防局



アスタコなど



積載車 ※JAF HPより



自走式ビーチクリーナー



低圧発電車



災害対策連絡車



海岸防除作業車両



高所作業車